

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

No.644 ★公益社団法人 読書推進運動協議会 定時総会(1~4頁)

定価60円 会員の購読料は
会費の中含まれる

公益社団法人 読書推進運動協議会 2021年度 定時総会

すべての議案を承認 新体制で事業の推進に取り組む



開会の挨拶を述べる
野間会長

6月18日(金)午後3時より、東京都千代田区の出版クラブビル会議室において、「公益社団法人 読書推進運動協議会 2021年度定時総会」が開催された。
野間省伸会長の挨拶のあと、定款第16条の規定により、野間会長が議長席につき、議事を進行した。今回の総会は昨年に続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、会員に委任状の積極的な活用をお願いしたため、実際の出席会員は12名、委任状提出会員は205名、合計217名の出席となった。定款第17条の規定による定足数、総会員の半数(42名)を超えたので、総会は成立した。
定款第20条の規定により、総会の議事録記名押印者として、野間

会長、森茜副会長、設楽敬一常務理事の3名が指名された。
第一号議案は「2020年度事業報告書および決算報告書」承認の件。「2020年度事業報告書」については、齋藤健司事業委員長に代わり、小塚昌弘事務局長から報告が行われた。つづいて「2020年度決算報告書」については、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録などについて、堀内丸恵財務委員長に代わり、小塚事務局長から説明が行われた。その後、監事を代表して春井宏之監事が、本決算は公正かつ正確であることを確認するとの監事報告を行った。議長は出席会員に語り、それぞれ全員異議なく承認可決された。
第二号議案は「役員改選」承認の件。読書推進運動協議会の役員は任期は2年であり、本年は改選期にあたる。役員改選については、構成団体から候補者の推薦を受け、17名の役員候補者名簿が議長より提示された。役員17名中、新任は岡本功、田仲幹弘、成瀬雅人、宮原博昭の4名、退任は近藤敏貴、堀内丸恵、持谷壽夫、矢部敬一の4名で、ほかは再任。定款第22条の規定に従い、議長は以上の推薦について出席会員に諮

り、全員異議なく原案通り承認可決された。
第三号議案は「2021年度事業計画書および収支予算書」報告の件。「2021年度事業計画書」と「2021年度収支予算書」については、小塚事務局長から説明があり、いずれも、2020年度第2回理事会で承認されたことが報告された。議長は出席会員に語り、全員異議なく承認された。
野間議長による閉会の挨拶で総会は閉会したが、閉会后、別室にて2021年度第2回理事会が開催され、定款第32条により新役員が選定された。理事会終了後に総会会場で、役員の新たな役職分担が議長より報告され、すべての議事を終了した。



本年も座席の間隔を広く取っての
総会開催となった

■挨拶

公益社団法人
読書推進運動協議会

会長 野間 省伸



本日はお忙しいなか、公益社団法人読書推進運動協議会、2021年度定時総会にご出席いただき、ありがとうございます。今年度も、いまだ新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況です。しかしながら、読書推進運動協議会では、昨年からの見を活かして、制約のあるなかでも着実に読書推進事業を展開しております。

4月23日から5月12日まで行われた、春の「こどもの読書週間」についても、昨年は図書館の休館や学校の休校により、行事主催者は82件にとどまりましたが、今年は、各地で工夫をこらして行事が

開催されたようです。

同じく春の事業、中学生・高校生・大学生をはじめとする、若い方向けに配布しているブックガイド『若い人に贈る読書のすすめ2021』も、卒業・入学式シーズンを過ぎても多くのご希望をいただいております。

また、読書推進運動協議会に事務局を置く「子どもの読書推進会議」が、主催団体のひとつとして参加しております。「上野の森親子ブックフェスタ2021」は、5月3日から5月5日の開催予定でしたが、緊急事態宣言の発出にともない、上野公園での謝恩ブックセールを中止し、準備していた6本の講演会は、千代田区の出版クラブホールに場所を移して無観客で開催、オンラインで中継・配信しました。はじめての試みでは



2020年の「読書週間」「こどもの読書週間」ポスター



総会終了後には、理事会が開かれ、役員の役割が決まった

ありましたが、コロナ下での新しい読書推進の形を示せたのではないかと存じます。

さらに全国には、感染対策をとつたうえで、「読み聞かせ」や「おはなし会」などの活動を再開した読書グループも数多くあります。「ステイホーム」「巣こもり生活」が続くなかで、多くの方が本を読むことのおもしろさをあらためて実感されています。この流れがよい方向に向かい、より多くのみなさまが本を手にとってくださいませよう、読書推進運動協議会もお手伝いをしてまいりたいと存じます。

今後とも、みなさまのご支援とご協力をお願いしまして、ご挨拶といたします。

■2021年度 事業方針

コロナ禍での読書推進運動を記録に残す

読書推進運動協議会はおかげさまで2019年に創立60周年を迎えました。歴史の蓄積の上に立ち、読書の未来を掲げてこれからも活動を継続してまいります。

前2020年度は新型コロナウイルス感染症流行のため、読書推進運動も大きな影響を受け、各地の行事もWebの活用などデジタル化が一気に進みました。それを受けて本協議会でもこうした変化に対応できるよう、新たな読書推進運動支援のありかたを模索してまいりたいと存じます。

また5年ごとに実施している「全国読書グループ調査」とその集計報告となる『全国読書グループ総覧』は、次回2023年度の調査と刊行に向けて準備を進めてまいります。

「こどもの読書週間」「読書週間」の標語は、会員社のみならず、全国の図書館、そしてホームページで一般の方々にも呼びかけて募集しています。とくに販売会社や出版社には事業委員として深く関わっていただき、それぞれの社員

からたくさんのお寄せをいただいています。こうした作業を通し、事業の認知度をより高めていくようにいたします。ここ数年は、図書館だけでなく、市町村の広報担当者からポスター画像の掲載について、問い合わせが増えました。「読書週間」は、ポスターのイラストも一般から公募しており、2016年からは標語にあわせたイラストを公募し、標語と親和性の高い力作が多く寄せられ、ポスターも好評を得ています。「こどもの読書週間」のポスターにつきましては、2014年より絵本作家・荒井良二さんにイラストを、グラフィックデザイナー・杉浦康平さんにデザインをお願いしております。

読書週間事業の一環として行われている、全国の読書推進運動協議会の推薦をもとに選ばれる「全国優良読書グループ表彰」と、永年にわたって読書の普及に貢献された団体と個人を表彰する「野間読書推進賞」の顕彰事業は、関係団体や各道府県の読書推進運動協

2021年度役員構成

順不同・敬称略

会 長	野間 省伸	日本書籍出版協会 (講談社社長)
副 会 長	平林 彰	日本出版取次協会 (日本出版販売取締役)
同	森 茜	日本図書館協会 (同顧問)
常務理事	宮原 博昭	日本雑誌協会 (学研ホールディングス社長)
(財務委員長)	齋藤 健司	日本書籍出版協会 (金の星社社長)
同	成瀬 雅人	日本書籍出版協会 (原書房社長)
同	矢幡 秀治	日本書店商業組合連合会 (真光書店社長)
同	設楽 敬一	全国学校図書館協議会 (同理事長)
同	田仲 幹弘	日本出版取次協会 (トーハン取締役副社長)
理 事	秋本 敏	日本図書館協会 (同図書館紹介事業委員会委員長)
同	岡本 功	日本書籍出版協会 (ひかりのくにに社長)
同	千石 雅仁	教科書協会 (東京書籍社長)
同	山縣裕一郎	日本雑誌協会 (東洋経済新報社会長)
同	渡部 正嗣	日本出版取次協会 (日教販社長)
監 事	春井 宏之	日本書店商業組合連合会 (正文館書店社長)
同	竹村 和子	全国学校図書館協議会 (同常務理事・事務局長)
同	佐藤 潤一	日本書籍出版協会 (福音館書店社長)

事務局長 小塚昌弘

議会との緊密な協力関係のもとに推進しています。

昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、公共図書館・学校図書館の休館、書店の休業や、読書関連のイベントの中止も相次ぎ、各地の読書推進活動も大きな影響を受けました。一方でWeb、SNS、放送などのメディアを活用した読書推進活動や、感染対策を施したうえで少人数イベント開催など、それに対応した新たな動きも出てきております。

全国の読書推進運動協議会から寄せられた推薦図書をもとに作成する、約21万部の「若い人に贈る読書のすすめ」と、約14万部の「敬老の日読書のすすめ」のリー

フレットは、今年度も関係の団体を通じてお配りしていきます。学校や図書館からの問い合わせが多いのは、積極的に活用されている表れだと思います。

機関紙『読書推進運動』は、これまでと同様に事業の紹介、関係団体・機関のニュースを中心に紙面づくりを心掛けます。昨年度は感染症対策として活動が制限されたことを考慮し、紹介できなかった野間読書推進賞受賞者の活動を、本年度は積極的に紹介してまいります。

ホームページでの「読書週間」「こどもの読書週間」のしおり、ポップなどの素材データの配信も好評です。さらに魅力ある素材の

提供に取り組んでいきます。

2013年12月から行ってきた出版復興基金(2)「大震災出版復興基金」の口座管理については、基金の設立から10年が経過し「被災地への読書支援」という目的を達成したことから、2020年度いっぱい基金を清算し事業を終了いたしました。

現在40道府県にそれぞれの読書推進運動協議会があり、読書推進運動協議会のさまざまな事業を進めるにあたり、連携を強め、大きな協力をいただいています。しかし、読書推進運動協議会のない都府県が7つあります。こうした都府県にあらためて働きかけ、事業の活性化をはかっています。

2021年度 会員社の異動

入会会員社	株式会社 丸善マツチ
〇特別会員	株式会社 毎日新聞社
〇一般会員	株式会社 丸善マツチ
退会会員社	株式会社 北海道新聞社 東京支社
〇特別会員	株式会社 毎日新聞出版 株式会社
〇一般会員	株式会社 日本カメラ社
株式会社 太陽印刷	株式会社
会員社数	285

(2021年6月18日現在)



公益社団法人 読書推進運動協議会 2021年度事業		
名称	期間	内容
2021 第75回 読書週間	10月27日 ～ 11月9日 (14日間)	<ul style="list-style-type: none"> ・標語とイラストを募集、標語選定事業委員会とイラスト選定事業委員会にて決定し、ポスター6万5000枚を製作 ・雑誌広告を作成。雑誌協会を通じ、雑誌出版社に掲載協力を要請 ・道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・「文字・活字文化の日(10月27日)」と連携 ・全国優良読書グループ表彰の実施 ・道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
2021 第63回 こどもの読書週間	4月23日 ～ 5月12日 (20日間)	<ul style="list-style-type: none"> ・標語を募集、標語選定事業委員会にて決定。ポスター6万枚を製作 ・道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、小・中・高の学校図書館、書店、会員社、マスコミなどへポスターを送付。掲出を要請 ・「子ども読書の日(4月23日)」と連携 ・道府県読書推進運動協議会へ行事補助金贈呈。行事報告を要請し、機関紙別冊に掲載
第51回 野間読書推進賞	贈呈式は 11月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・読書推進運動に功績があった団体および個人を顕彰(2団体2個人が基本) ・贈呈式は「読書週間」期間中に開催
2021 敬老の日読書のすすめ	敬老の日を 中心に	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を対象とした選定図書リーフレット14万3000部を製作 ・道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、書店、会員社などへ送付
2022 若い人に贈る 読書のすすめ	1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人、高校・大学の卒業生を対象とした選定図書リーフレット21万部を製作 ・道府県読書推進運動協議会、全国の公共図書館、高校・大学の図書館、書店、会員社などへ送付
機関紙 『読書推進運動』	毎月	<ul style="list-style-type: none"> ・機関紙『読書推進運動』を毎月発行するほか、別冊付録を年2回発行 ・発行部数 約5500部 ・道府県読書推進運動協議会、会員社、全国の公共図書館、関係団体などに送付
公式ホームページ	毎月2回更新	<ul style="list-style-type: none"> ・団体事業の発信 ・機関紙バックナンバーの掲載 ・図書館、学校、書店の展示用に、新規素材のデータ配信を行う
受託、共催、後援、協賛		<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの読書推進会議」の事務局を担当 ・伊藤忠記念財団の「子ども文庫助成事業」の受託 ・文部科学省より「子ども読書の日」のポスター制作を受託 ・関連団体の読書推進事業を後援、協賛、協力

■学校図書館賞・学校図書館出版賞決定

子どもたちの未来を拓き、
地域と歩む論文・実践が受賞

公益社団法人 全国学校図書館

協議会(全国SLA)は、「第51回
学校図書館賞」と「第23回 学校
図書館出版賞」を決定、発表した。

《今年度の受賞者》(敬称略)

第51回 学校図書館賞

〈実践の部〉

杉並区立済美教育センター 学校図

書館支援担当

事由 杉並区の学校司書配置の成
果と杉並区立済美教育センター学
校図書館サポートデスクの活動

第51回 学校図書館出版賞

〈実践の部〉

東京都立城東特別支援学校

事由 知的障害特別支援学校にお
ける学校図書館を活用した授業改
善の実践(館長(校長)を中心と
した体制整備とカリキュラムマネ
ジメントのもとに)

第23回 学校図書館出版賞

株式会社 岩崎書店

事由 『くらしをくらべる戦前・
戦中・戦後』(全3巻) / 古館明廣
著の刊行

株式会社 備成社

事由 『和食のだしは海のめぐみ』
(全3巻) / 阿部秀樹 写真・文
日本昆布協会(ほか) 監修の刊行

株式会社 小峰書店

事由 『手話でつながる世界』(全
4巻) / 全日本ろうあ連盟 監修
の刊行

株式会社 理論社

事由 『和紙ってなに?』(全4巻)
/ 和紙ってなに?編集室 著の刊
行

(学校図書館出版賞大賞は該当な
し)

学校図書館賞の杉並区立済美教
育センター学校図書館支援担当
は、すべての杉並区立小・中学
校への学校司書配置が完了した
2012年度以降の一連の取組が
受賞事由。学校図書館運営支援
月1回のペースで開かれる多彩な
プログラムの学校司書研修、学校
図書館の蔵書検索システムと資料
配送体制の整備と運用などが、高
く評価された。

学校図書館賞奨励賞の都立城東

特別支援学校は、校長が学校図書
館長として校内体制整備とカリ
キュラムマネジメントをもとに、
学校図書館を活用した授業改善を
実践している。

出版賞は2020年5月

2021年4月までに刊行された
122企画39冊が候補。候補作では、
昨年引き続き、「SDGs」を
扱ったシリーズが多く、また、感
染症をテーマにしたシリーズも目
についた。

『くらしをくらべる戦前・戦中・
戦後』は、戦争によって人びとの
暮らしがどのように変わったかを
貴重な写真で紹介し、歴史だけで
なく戦争のおそろしさ、平和の尊
さを知ることができる。

『和食のだしは海のめぐみ』は、
だしの素となる昆布などの漁と加
工、調理法、歴史と多面的に取り
あげており、家庭料だけではなく、
社会科、総合的な学習の時間など、
はば広く活用できる。

『手話でつながる世界』は、手話
をイラストで紹介。手話表現の豊
かさにつれて学び、また、聴覚障
がいへの正しい理解へつながる。

『和紙ってなに?』は日本各地の
手漉き和紙の原料や作り方、和紙
と洋紙の違いを紹介し、写真も美し

く、各地の風土に根ざした技術と
和紙文化への理解が深まる。

また、全国SLAでは、第26回
日本絵本賞ポップ交流サイトを
開設した。今回の日本絵本賞最終
候補絵本30点のなかから、好きな
絵本を読んで描いたポップを写真
で投稿することができる。投稿さ
れたポップに「いいね!」をつけ
ることもでき、読書週間のイベン
トや図書委員会活動、絵本読書や
ICTを活用した授業実践、地域・
家庭との連携などでの活用が期待
されている。投稿受付は2022

年2月28日(月)まで。絵本を通じて
交流の輪が広がる活動として、ぜ
ひ取り組んでいただきたい。

全国SLAは、このポップ投稿
に協力する実践校60校(学校、保
育所、幼稚園)も募集。実践校に
は9月中旬に受賞絵本4冊に最終
候補絵本より選ばれた数冊のセッ
トと受賞絵本のポスターを送り、
セットを活用した読書活動の実践
と、全校を挙げてのポップの投稿
を依頼する(応募校多数の場合は
抽選)。申し込みの締め切りは8
月25日(水)必着。募集の詳細は、ポッ
プ交流サイトにて確認できる。

●第26回日本絵本賞 ポップ交流
サイト

<https://ehon-pop.j.sla.or.jp/>

●親地連 全国交流集会日程変更
のお知らせ

機関紙『読書推進運動』643号で
お知らせした、親子読書地域文庫
全国連絡会(親地連) 全国交流集
会 オンライン集会開催日が10月
2日(土)から10月3日(日)に変更とな
りました。

なお、10月9日(土)の会場参加型
集会は変更ありません(感染症の
状況によっては、変更あり)。

親地連では、全国交流集会の参
加申し込みを、オンライン、会場
参加型ともに、8月より受け付け
ます。詳しくは親地連ホームペー
ジ ([https://www.oyatiren.
info/](https://www.oyatiren.info/)) をご覧ください。

●『読書推進運動』お届け時期に
ついて

機関紙『読書推進運動』次号64
号(2021年8月15日号)は、
当事務局、印刷会社、発送業者の
夏期休業により、8月17日出来
それ以降の発送となります。

みなさまにはご迷惑をおかけい
たしますが、ご了承のほど、どう
ぞよろしく願いたします。



優良読書グループの歩み (7)

2020年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

川内読書会

代表者 長谷川信子

群馬県桐生市

〈推薦〉

群馬県読書推進運動協議会

桐生図書館からの移動図書館の利用者への呼びかけに応じて、1963年に発足した。発会当時の会員数は15名であった。その後男性だけ7人の会員で運営していたことがあり、7人の侍などと呼ばれていた。いまは男性2名、女性5名で、月に1回川内公民館を会場にして開催している。

テキストは担当が、図書館の団体用図書から選んで借りてくる。会員全員好みにあう本などないから、なんでこんな本を選んだのかと不満の声が出る。でも自分が選ぶなら読まないであろうテキストを読むと、思わぬ発見があった。視野が広がるメリットもある。なかにはテキストに関わる記事

評伝で、事実を小説化する手法に啓発された。読むことから書くことを目指している私たちにとって大いに勉強になった。

蔵木子ども読書会 サクラマス教室

代表者 朋澤 公香

島根県鹿足郡吉賀町

〈推薦〉

島根県読書推進運動協議会

を持参して披露する人がいて話題が盛りあがる。また、ときには実地探訪をしたくなることもある。昨年は花巻の宮沢賢治の足跡を訪ね、賢治を再認識した。何年前には『ここ過ぎてー白秋と三人の妻』に刺激されて、白秋が二人目の女性と結婚生活を送った小田原の旧居を訪ねた。離婚して、不幸な後半生を送った江口章子の歌碑が、国東半島にあると知ったのもその本からである。ただし、国東半島行は遠くはたせない。話しあいは約90分、読後感をそれぞれがノートに記してきて発表する。ひとまわり発表したあとで作品全般の話しあいに移る。時間中はテキストと関わりない世間話は極力しないようにしている。

そのほか、地域の会員以外を集めて読み聞かせなどを行っている。読んだ本は膨大な数になる。最近読んだ本は内館牧子の『すぐ死ぬんだから』『終わつた人』。直近では、林真理子の『綴る女』を読んだ。『綴る女』は宮尾登美子の

小学校の土曜日休校を受け、本の好きな大人ふたりがはじめたのが『蔵木子ども読書会』でした。地域の公民館を拠点に、館長や主事とともに地域の子どもたちの育ちについて思いをはせて活動してきました。スタッフたちが小さいころからの本好きで、本の楽しさを子どもたちに伝えたいと、楽しい本を、おもしろい本を、愉快な本を、地域に残る話を、感動した本を、自然の不思議が書かれた本を、そして自分たちが好きな本を、読んで読み進めてきました。子どもたちはよく聞いてくれ、ときどき一緒にクイズと笑ったり、涙ぐんだりしてくれ、静かですが心にしみる優しい時間でした。

28年間にスタッフも増え、大型紙芝居の制作、地域に残るおはな



本と体験で子どもと感動を共有する

しや場所の探索をはじめ、さまざまなことを子どもたちとやってきました。戦争の本を読み、その体験を聴き、季節の事柄にふれながら行事を行い、地域の料理を作り……。高齢者のお祝いの会で歌やおはなしの披露、秋には炭をおこして外でサンマを焼いたりもしました。本と人と地域と物と味覚と季節の香りと、子どもたちの周りで感じられることを繋ぎあわせることで一冊の本がより印象深いものになり、共有できたと思います。「本を読めば、正しい力が心にたまります」「本を読めば、正しい力が心にたまります」「本を読めば、正しい力が心にたまります」

紙芝居の制作、地域に残るおはな

まる」廃校になった小さな小学校の一角に掲げてあったこの4つのことばが心を捉えて離さず、涙すら浮かんできました。私の中の読書のイメージそのまま、わが子を含めてすべての子どもたちの思いと重なりました。そして、毎晩幾冊も読み聞かせてくれた私の母の姿もちらつきました。

ある講演会で講師が「読書とは、読み聞かせとは、大きなグラスに一滴、一滴、水を注いでいくようなものです。成果はほとんど見えない。でもいつかかならず溢れるときがきます」とおっしゃっていました。ああ、そういうことなんだろなあと思いました。読み聞かせで、すべての子がいます。読書家になるわけではありません。でも、いつかその子が自ら本と対峙してくれたら……。最高にうれしいですよ。

ほんのちよつとのあ・い・だ

代表者 近森佐代子

高知県高岡郡四万十町

〈推薦〉
高知県図書館協会
読書推進運動部会

私たち読み語りボランティア「ほんのちよつとのあ・い・だ」は、

2002年6月、町村合併の2年前に学校での朝の読み聞かせボランティアとして、町内ではじめて結成されました。

「ほんのちよつとのあ・い・だ」というネーミングは、結成にあたりグループのなかで考え、ほんの少しの間を本にかけてちよつととあいだにしたものです。

当初は旧大正町4校ではじめましたが、学校統合により現在は2校で活動。メンバーは11名、うち男性2名が参加しています。

最初は本の選び方や、持ち方、発声を学んだり、講師を迎えての勉強会をして積極的に取り組みをはじめました。

活動としては、2校の小学校に週1回と、グループホームで月2回、幼稚園では小児科医の指導のもと、出産や赤ちゃんのことを勉強する「命の学習」に参加しています。小学校ではおもに絵本、紙芝居、高学年にはブックトークや新聞をもとに社会情勢の話などを行います。グループホームでは紙芝居や、みんなで歌を歌ったりします。認知機能が低下している人たちですが、戦争の本を読んだりすると涙を流して聴いてくれ、昔話や民話も喜んでくれます。

長年本読みをするにあたり、い



小学校での朝の読み聞かせは設立当初から続けている

ちばん苦労することは本選びです。どんな本を読めば喜んでもらえるか、興味を持ってもらえるか、苦労もありますが、子どもたちが目を輝かせ熱心に聞いてくれ、また、かわいそうな本を目に涙を浮かべ聞いてくれると、私どももつい力が入ります。

毎年毎年、本読みを聞いてくれた子どもたちが巣立つなか、私たちの読み語りで子どもたちの心なかに少しでも役立つものが育まれればいいなと思っています。今後多くの本と出会い、子どもたちとともに私たち大人も成長していけることを楽しみに、活動続けたいと思っています。

読み聞かせボランティアおはなし「くすくす」

代表者 松井 絹代

熊本県玉名市

熊本県読書推進運動協議会

2003年、公民館講座「読み聞かせ」の講座修了後、行政からの依頼で読み聞かせボランティアの会を発足。折しも、PTA活動で小学校から続けていた読み聞かせを、中学校卒業と同時に終わらせるのは寂しいと感じていた母親たちを仲間を誘いこみ10余名で活動開始。おはなし「くすくす」は、町木の楠とおはなしを聞いてくすくす笑ってほしいとの思いから命名。絵本や紙芝居中心での図書館おはなし会や赤ちゃんのブックスタートからはじまった活動は、もつと楽しく土質のおはなし会を



おすすめ絵本と手作りの小道具で記念撮影

提供したいという欲が膨らみ、みんなで集まってペープサート・パネルシアター・エプロンシアター・てぶくろ人形などの小道具を製作しました。うれしいことに公民館講座「小物作り」のお裁縫得意の方々が、布絵本やエプロンシアターを作ってくださいました。絵が得意な友人がパネルシアターを描いてくれるなど、多くの方々に支えられておはなしの引き出しが増え、幼稚園・小学校・老健施設・子育て支援センターなど出前おはなし会の場が広がりました。

そのうちに、行政の後押しもあり、活動はおはなし会にとどまらず、公民館講座や保育士研修会の「おはなし小道具作り」の講師

をするまでに成長しました。ときには、小学校の保護者に、読み聞かせの必要性や意義、楽しさを伝えるための講演会の依頼もありました。そのときに熱く、「忙しいからこそ、絵本1冊読む間の子どもさんとの向きあいの時間を作ってください」「父親に子どもを寝かしつけるとき読み聞かせをしてもらい、子育てに参加させてください」「子どものころ聞いた親の声が、犯罪に走る気持ちを止めたという事例もあるんですよ」と、本の持つ力や、親子のふれあいの大切さを伝えていきます。メディアの発達した現代だからこそ、リアルな生声でのおはなし会が大事だと思ひ、がんばっています。

行政の支援と地域住民の方々との連携や暖かい見守りが大きな力になっていることに感謝しています。会員は、多忙な仕事や介護や孫守りを理由に辞めていく人もおり、いまわずかに5名です。「ボランティアは、できる人ができることをできるときにできるし」(「範囲」)を合い言葉にして、無理をしないのが、長続きの秘訣かなと思っています。とはいえ、平均年齢が拠点に60歳を超えてきましたので、若い方の入会を切に願う今日このごろです。

【大震災】 出版対策本部

10年間の活動記録を公開し 未来へつなげる

一般社団法人 日本書籍出版協会... 出版対策本部(構成団体) 一般社団法人 日本書籍出版協会、一般社団法人 日本雑誌協会、一般財団法人 日本出版クラブ、公益社団法人 読書推進運動協議会)の活動記録が掲載されている。

活動記録は、2011年3月11日の東日本大震災後被災地の出

■日本図書館協会 図書館充実への提言

すべての国民が知識・知恵を 享受できるための図書館整備を

公益社団法人 日本図書館協会(日図協)では新型コロナウイルス感染症による地方自治体予算への大きな影響を考慮し、図書館振興のための財政上の配慮など、図書館サービスを低下させずに向上させるための提言をまとめ、本年6月1日付で、総務大臣および文部科学大臣に提出し、2022年度の政府予算へ反映するよう要望した。

提言では、資料費の確保と増額および公立図書館職員の確保と充実の必要性など、すべての国民が等しく知識と知恵を享受できる環境の整備を訴えている。また、コロナ禍で、図書館をテ

ると思われる。

対策本部では、解散は区切りであつて、支援活動の終了ではないこととして、これからも震災の記憶を支え未来へつなげる出版活動への決意を新たにしている。また、「忘れない」「訪ねることが支援になる」のキーワードで8回開催されたバスターアワードは、復興の力強さと困難さを目の当たりにする機会として、参加者の反響も大きかったこともあり、新型コロナウイルス感染症の収束後、実施したいとしている。

●日本書籍出版協会ホームページ

https://www.jpba.or.jp/

よう、デジタル社会に対応した設備の準備、資料のデータ配信に向けて著作権者に配慮したガイドラインの検討と作成の必要性も示された。

日図協では、都道府県立図書館長、市区町村立図書館長へもこの提言を踏まえ、公立図書館の充実などのため、各自治体における次年度の予算要求に反映してほしいと、呼びかけている。

●日本図書館協会ホームページ

https://www.jla.or.jp/

事務局報告(6月)

- ・7日 第54回 造本装幀コンクール審査会に出席
・8日 子どもの読書推進会議 第1回幹事を開催(Noom会議)
・9日 機関紙「読書推進運動」643号 入稿
・11日 感染症対策のため、「敬老の日」読書のすすめ 書目選定事業委員会開催に替えて、各事業委員にメールでの選挙、投票をお願い
・15日 機関紙「読書推進運動」643号 出来
・18日 「2021年度 定時総会」開催。出席12名、委任状出席25名
2020年度 事業報告書および決算報告書、役員改選を承認
・20日 伊藤忠記念財団「子ども文庫助成」応募締め切り(消印有効)
・21日 子どもの読書推進会議 第1回総会案内メールを送付
・22日 内閣府に「2020年度 事業報告書」を提出
・22日 文部科学省と「子ども読書の日」ポスターについて打ちあわせ
・24日 子どもの読書推進会議「2020年度 事業報告書」入稿
・25日 「読書週間」ポスターイラスト 応募締め切り
・25日 「敬老の日」読書のすすめ 書目投票を募集・確認のち、選定結果を各委員へ通知
・26日 「2020年度 第2回 常務理事 会案内」を送付
・28日 子どもの読書推進会議「2020年度 事業報告書」責了
・29日 長坂隆太郎事務所へ登記依頼 打ちあわせ

*読書推進運動協議会 事務局 夏期休業のお知らせ 8月10日(火)~13日(金)

●編集部 & 事務局の ひ・と・こ・と

●先日、秋田県の高橋嶺三さん(第29回 野間読書推進賞 個人部受賞)のご子息 行文さんより、嶺三さんが先日、95歳で天寿をまっとうされたこと、野間読書推進賞受賞当時の資料のご希望のメールをいただきました。●嶺三さんの受賞事由、ことば、贈呈式の様子が掲載された「読書推進運動」などのデータをお送りしたところ、すてきなエピソードであふれたメールをいただきましたので、いくつか紹介いたします。●口癖は「わからないことは、辞書を引け。それでもわからないれば図書館に行け!」。幼いころは、図書館の読み聞かせの会に連れて行つてくれ、小学校3年生ごろからは市内の本屋でツケで本が買えるように手配してくれた。●教員退職後は「子ども図書館」の運営と大館市立栗森記念図書館の後援会長を務められた。発行された「子ども図書館だより」はすべて残っていて、「絵本の読み聞かせについて」と題した研究ノートもある。「子ども図書館」を閉じたとき、地元小学校に蔵書を寄付された。●とにかく時間をみては読書。入院してからも亡くなる日の朝まで本を読んでいたと、看護師さんに聞いた。●地域の過疎化が進み、子ども図書館の利用者が減りつつあった時期のご受賞でしたので、ともに「子ども図書館」を支えてきたお母さまにとっても、励みと晴れがましい思い出となったことでした。この賞の主権団体として、たいへんありがたい、責任を感じることはばす。(伸)